

学生自主企画プロジェクト

学生の意欲的で独創的な自主活動が地域社会へ大きく貢献しています

学生自主企画プロジェクトは、学生の独創的、意欲的な活動を通して企画力、行動力、実践力を培うことを目的とし、学生の大学運営への参画、学生自身の大学アイデンティティづくりを目指して、毎年募集し、活動経費を援助しています。

平成24年度は全学で15件の採択があり、すべての団体の活動報告の結果、優秀団体として、教育学部から1団体、経済学部から2団体の合計3団体が選ばれました。

優秀団体の活動内容には目を見張るものがあり、毎年レベルが上がってきています。皆さんも多数応募してください。待ってま〜す!

では、ここで、平成24年度に優秀団体として選ばれた3団体をご紹介します。

※募集は毎年4月〜5月上旬にかけて、経済学部は学生支援課、教育学部は学生・就職支援係で受け付けています。



各団体のポスター

ENJOY BASEBALL

私たち硬式野球部は、自主企画プロジェクトで、ENJOY BASEBALLという活動を行っています。活動内容は、滋賀県に「マナブース」という親の事情や身体的な事情で地域の少年野球チームに入れない子どもたちが所属している少年野球チームがあります。この「マナブース」というチームは、広い範囲から子どもたちを集めているため、地域で分かれている軟式野球連盟に入ることができず、それが理由で、地域の小学校のグラウンドや市のグラウンドをうまく借りることもできないため、十分な活動ができていない状況となっています。他にも、活動場所が確保できないために十分な活動ができないキムラ野球塾というチームがあります。

この2つのチームに活動できる場所を提供し、また野球教室を開き、滋賀大学硬式野球部の選手と共に野球をすることに

よって、野球の楽しさや深さ、そして、野球を通して子どもたちが大きくなって思い返したときに、あの頃すごく楽しかったと思えるよう、手伝いたいという思いで活動しています。昨年は、7回ほど交流させていただきました。野球教室では、子どもたちには基本を中心に教えているのですが、真剣に私たちの指導を聞いてくれますし、目をキラキラさせながら野球をしているので、私たちがやりがいを持って子どもたちと交流することができます。また子どもたちと交流することで、普段から当たり前のように野球ができていたことへの感謝の気持ちを持つようになりましたし、親や周りの人々への感謝の気持ちを再確認することもできたので、交流できてよかったです。試合にも子どもたちが応援をしに来てくれる時もあるので、子どもたちの目標であり続けられるようにこれからも頑張っていきたいと思います。



全員で守備練習

子どもたちと楽しく練習中

練習終りの挨拶

滋賀大ラジオプロジェクト

「滋賀大のラジオ番組を作ろうプロジェクト」は、滋賀大生によるラジオ番組の制作・放送を通じ、学生目線で滋賀大生の「今」を発信するプロジェクトです。具体的には、地域コミュニティFMのエフエムひこねで「ゆうやけホットタイム〜こちら滋賀大放送局〜」という番組を3カ月間放送させていただきました。「ゆうやけホットタイム」というのは、平日の夕方に放送している生放送の帯番組で、その月曜日枠を私たち滋賀大生が担当しました。

私たち番組パーソナリティ2人に、学生や先生といったゲストを迎えて放送しました。放送内容は、部活やサークル、海外体験



エフエムひこねのスタジオ

などの学生生活全般です。また、クリスマスやバレンタインといった季節のイベント、大学の行事などを取り上げた放送回もあります。プロジェクトを通じて、目的であった滋賀大生の「今」を地域の方々に知ってもらうことは達成することができたと思います。地域の方に「番組を聞いたよ」と言われた時はとても嬉しかったです。

最初は、公共の電波を使っただけの生放送ということで、とても緊張してごちなかつたことを今でも鮮明に覚えています。しかし、回を重ねるごとに話すことにも慣れ、リスナーのことを考えることができる余裕ができました。この経験が私たちを一回り大きくしてくれたと思います。また、学生が大学内にとどまらず地域へ出て活動することで、地域で活躍されている大人の先輩と触れ合えて、つながりを持つことができたのは大きな財産になったと思います。

本プロジェクト終了後もこの経験を活かし、4月から「放送研究会」を立ち上げ活動しています。メンバーも大幅に増えたことで、今後は活動の幅を広げていきたいと思っています。



演劇をやっている学生(中央)をゲストに



開学祭実行委員の皆さんと

冬の星空観測プロジェクト

私たちSUALAIは教育学部で昨年結成したばかりの天文同好会です。団体名はShiga University Astronomical Lover's Associationの頭文字から命名しました。私たちはこれまでに、学部内屋上や広場にて目視や天体望遠鏡を用いての星や月の観測、科学センターでのプラネタリウム観賞、長期休暇を利用して天体望遠鏡完備の宿泊施設での合宿といった活動を行ってきました。



大塔コスミックパーク「星のくに」にて

大型の天体望遠鏡で夏の三大三角形などを観測

活動をすすめる中で教育学部ならではのイベント活動はできないものかと考えていた私たちのもとに、ある問題が舞い込んできました。本学部には教師を志す学生が多くいますが、理科を専門とする者はもちろん、小学校の理科教育においても天文分野の指導は不可欠です。しかしそれらは宇宙という壮大な環境

を舞台にし、そのスケールの大きさに戸惑う人も少なくないため、苦手意識を持ちやすい分野であるといわれていました。

そこでその問題を少しでも解決すべく、学生自主企画プロジェクトに応募し、学部生を対象とした観測会を企画しました。大学の援助を受けてそれらを実施したところ、回生問わずさまざまな免許取得予定の学生が参加してくれました。参加した学生からは木星の模様を見ることができたことに対する驚きの声をはじめ、さらなる知識を求め意見といった、次の企画への参加意欲がうかがえ、学生の天文分野に対する意識の向上に貢献できたといえます。この企画は後に優秀賞として表彰していただき、私たちの大きな自信につながりました。

今後の活動としては、さらに内容を充実させた観測会プロジェクトを定期的に行い、学内だけでなく他大学との交流も積極的に行う予定です。また後々は地域住民の方や子どもたちを対象としたイベントを実施したいと考えています。より多くの人々に天文の魅力を伝えられるよう今後も活動していきます!



自分の目で実際に星を見られる経験は貴重